

麹町教会「ミサがわかるセミナー」2023～2024 シリーズ
《年間テーマ》

ミサを通して神を学ぶ ～新しい式次第とともに！

第4回 全能永遠の神

2023年11月12日 石井祥裕

第1部 全能の神

1 「全能」の登場する式文

回心の祈り 「全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、
永遠のいのちに導いてくださいますように。」

栄光の賛歌 「神なる主、天の王、全能の父なる神よ。」

使徒信条 「天地の創造主、全能の父である神を信じます。」
「～復活し、天に昇って、全能の父である神の右の座に着き、～」

全奉献文 結びの栄唱 「キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、
全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、世々に至るまで。」

派遣の祝福 「全能の神、父と子と聖霊の祝福が皆さんの上にありますように。」

＋公式祈願、叙唱における 冒頭の神への呼びかけの基本の一つ しばしば「全能永遠の神」

※語感・語義の吟味

「全能」の日本語感 「何事もできないことのないこと。十全な能力」

参考「万能＝①すべての物事に効能のあること。②さまざまな物事にたくみなこと」（『広辞苑』）

「全能」の日本語的意味に関係する福音書の箇所：

金持ちの青年との対話のあとの弟子たちの対話の中でのイエスのことば：

マルコ10:27（だれが救われるのだろうか）「人間にできることではないが、神にはできる。
神は何でもできるからだ」（並行箇所 マタイ19:26；ルカ18:27）

「全能」＝典礼書の規範版のラテン語 オムニポテンス omnipotens 「全能の方、全能者」

語形 omnis すべての＋ potens （できる possumからの展開形）

①強力な、影響力のある

②～の能力がある。～が可能な

③支配する、～の長である」（研究社『羅和辞典』改訂版）

ギリシア語のパントクラトールも同構造：パス（すべて）＋クラテオー（力がある／支配する）

⇒「全能」と訳すよりも「全支配（者）」が的確

「全能の神」⇒「全支配者である神」／／「すべてを支配する／治める」神

隠されている意味 神の支配＝神の国／「主」であること

2 関連式文 「全支配／すべてを治める」に日本語の上で関連する式文

感謝の賛歌 「聖なる、聖なる、聖なる神、すべてを治める神なる主。」（従来「万軍の神なる主」）

公式祈願の結び （御父に向かう場合から）

集会祈願 ①「聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、世々としえに生き、
治められる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

②「主キリストは、聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、生きて、**治めておられます**、世々としえに。アーメン」

奉納祈願、拝領祈願 ②「主キリストは、生きて、**治めておられます**、世々としえに。アーメン」

※留意点 全能者である主＝御父のあり方でもあり、御父とともにいる御子キリストのあり方
このような父と子と聖霊の関係の中で、感謝の祭儀（ミサ）はささげられている

3 聖書からの照らし

旧約聖書

七十人訳（ギリシア語訳）でパントクラトルと訳される神の呼称

(1)エル・シャッドアイ／シャッドアイ

旧約における神の最も古い呼び名の一つ、族長たちの神

「エル・シャッドアイ」

創世記17:1「主はアブラムに現れて言われた。『わたしは**全能の神**である。』…」

創世記28:1 [イサクがヤコブを祝福する場面]「どうか、**全能の神**がお前を祝福して繁栄させ、お前を増やして多くの民の群れとしてくださるように。」

（創世記はほかに 35:11; 43:14; 48:3; 49:25）

出エジプト記6:3「（神はモーセに仰せになった。）『わたしは主である。わたしは、**アブラハム、イサク、ヤコブに全能の神として現れた**が、主というわたしの名は知らせなかった」

「シャッドアイ」としてはヨブ記に35回登場（新共同訳「全能者」と訳）／ほか第二マカバイ記に頻出

(2)「万軍の神／主」

「万軍」の原語ヘブライ語 サバー 「軍隊／衆軍／陣営」の複数形 セバオート

「戦いの神」の意味合いから宇宙万物を創造し、支配する神としての主の呼び名に深化

「天の万軍／神の万軍」で神の創造になる星辰（せいしん）を指す。

列王記上22:19「わたしは主が御座に差し、天の万軍がその左右に立っているのを見た」

詩編148:2「主の万軍よ、こぞって主を賛美せよ」等

「万軍の主」（YHWH セバオート）

とくに預言書に頻出（イザヤ55回、エレミヤ70回、ハガイ14回、ゼカリヤ53回、マラキ24回ほか）

イザヤ6:3「聖なる、聖なる、聖なる**万軍の主**。主の栄光は、地をすべて覆う」

ギリシア語聖書 キュリオス・セバオート、ラテン語聖書も Dominus Sebaoth

感謝の賛歌 Deus Sebaoth

新約聖書でのパントクラトルの登場箇所（全能者である／全能の）

福音書では同じ文脈 イエスの最高法院での裁判の場面 メシアなのかと聞かれての答え

マルコ14:62「あなたたちは、人の子が**全能の神の右に座り**、天の雲に囲まれて来るのを見る」

（並行箇所 マタイ26:64； ルカ22:69参照） **使徒信条**の表現と関連

黙示録の用例（全9回）⇒教会的賛美の源流（次のテーマ「永遠」との結びつきも顕著）

黙示録1:8「神である主、今おられ、かつておられ、やがて来られる方、

全能者がこう言われる。『わたしはアルファであり、オメガである。』」

4:8「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな。**全能者である神、主**

今おられ、かつておられ、やがて来られる方、」

11:7「今おられ、かつておられた方、**全能者である神、主**よ、感謝いたします。

大いなる力を振るって統治されたかたらずです」

15:3「全能者である神よ、主よ、あなたの業は偉大で、驚くべきもの」

(ほかに16:7; 16:14; 19:6; 19:15; 21:22)

4. まとめ

旧約聖書の神への賛美的な呼称の最も古いものの一つ。

預言者を通して、天地万物の創造主であり、すべてを支配される神を意味する呼称に深化。

その神の右の座に着き、御父と同じく全能の主であるキリストを賛美するのがキリスト教の特色

前回のテーマ「天にありつつともにおられる神」のあり方を別角度から表現するもの

イエスの「神の国」の福音、キリストの来臨を終わりの時に待ち望む心とも結びつく

※「治める」という日本語採用にも意味 「おさめる（治める・修める・納める・収める）」
治) 混乱している事物を安定させる。首長として統治する。乱れているものを平定する
つかさどりいとなむ=管理する。病苦をしずめなおす=治療する。（『広辞苑』）

第2部 永遠

1 「永遠の神」の登場する式文（奉獻文は第2、第3を参照 以下同じ）

叙唱の冒頭 「聖なる父、全能**永遠の神**、いっどこでも主・キリストによって賛美と感謝を
ささげることは、まことにとうとい大切な務めです」など

2 「永遠」という用語が登場する式文

回心の祈り「全能の神、いつくしみ深い父がわたしたちの罪をゆるし、
永遠のいのちに導いてくださいますように。」

使徒信条 「**永遠のいのち**を信じます」（ニケア・コンスタンチノーブル信条「来世のいのち」）

全奉獻文 イエスの杯についてのことば：「新しい**永遠の契約の血**」

第二奉獻文「（わたしたちを）**永遠のいのち**にあずからせてください」

第三奉獻文「聖霊によってわたしたちを、あなたにささげられた**永遠の供えもの**としてください。

主の祈りの副文 「国と力と栄光は、**永遠**にあなたのもの」（従来「限りなく」）

3 「永遠に」を意味する表現のある式文

公式祈願の結び（御父に向かう場合から）

集会祈願 ①「聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、**世々**とこしえに生き、
治められる御子、わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

②「主キリストは、聖霊による一致のうちに、あなたとともに神であり、
生きて、治めておられます、**世々**とこしえに。アーメン」

奉納祈願、拝領祈願②「主キリストは、生きて、治めておられます、**世々**とこしえに。アーメン」

叙唱の結び、感謝の賛歌の導入 「**終わりなく**ほめうたいます」など

奉獻文 結びの栄唱「キリストによってキリストとともにキリストのうちに、聖霊の交わりの中で、
全能の神、父であるあなたに、すべての誉れと栄光は、**世々に至るまで**。」

教会に平和を願う祈り「あなたはまことのいのち、すべてを導かれる神、**世々**とこしえに」

4. 聖書からの照らし（新共同訳「永遠」「代々に／代々限りなく／世々限りなく」「とこしえに」）

旧約聖書

永遠の神：出エジプト15:18 「主は代々限りなく**統べ治められる**」

エレミヤ10:10 「主は真理の神、命の神、**永遠を支配する王**」

ダニエル 4:31 「わたしはいと高き神をたたえ、永遠に生きる方をほめたたえた。

その支配は永遠に続き、その国は代々に及ぶ」

詩編 100:5 「主は恵み深く、慈しみはとこしえに。主の真実は代々に及ぶ」

詩編 146:10 「主はとこしえに王。シオンよ、あなたの神は代々に王。ハレルヤ」

(詩編 118; 119; 136など頻出)

永遠の契約：創世記 9:12 「……すべての生き物と、代々とこしえにわたしが立てる契約のしるし」

⇒創世記 9:16; 17:7,13,19; 出エジプト 31:16;サムエル下 23:5 ; エレミヤ32:40など

代々／世々に続く賛美

詩編45:18 「わたしはあなたの名を代々に語り伝えよう。

諸国の民は世々限りなく、あなたに感謝をささげるであろう」

詩編145:1-2 「わたしの王、神よ、あなたをあがめ、世々限りなく御名をたたえます。

絶えることなくあなたをたたえ、世々限りなく御名を賛美します」

新約聖書

神の永遠

ギリシア語 アイディオス (永遠の) / アイオーニオン (世々の)

ラテン語 sempiternus (永遠の) /セクロールム saeculorum (世々の)

ローマ1:20 「世界が造られたときから、目に見えない神の性質、つまり神の永遠の力と神性は被造物に現れており、これを通して神を知ることができます」

一テモテ1:17 「永遠の王、不滅で目に見えない唯一の神に、誉れと栄光が世々限りなくありますように」

黙示録4:9-10 「玉座に座っておられ、世々限りなく生きておられる方に……栄光と誉れをたたえて感謝をささげると……世々限りなく生きておられる方を礼拝し」

黙示録11:15 「この世の国は、我らの主と、そのメシアのものとなった。

主は世々限りなく統治される」

「世々限りなく」の賛美 ⇒栄唱という賛美の定型句に

「世々限りなく」ギリシア語 エイス・トラス・アイトナス・トシ・アイトノン

=ラテン語 in saecula saeculorum (直訳「世々の世々にまで」)

ガラテヤ1:5 「わたしたちの神であり父である方に世々限りなく栄光がありますように」

「栄光が世々限りなくありますように」

=ローマ16:27; エフェソ3:21; フィリピ 4:20;1テモテ1:17; 2テモテ4:18

関連 1ペトロ4:11 「栄光と力が」; 5:11 「力が」; 黙示録 1:6 「栄光と力が」;

黙示録 5:13 「賛美、誉れ、栄光、そして権力が」

黙示録 7:12 「賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が」

ほかにローマ11:25 「栄光が神に永遠にありますように」 ユダ25 参照

※今回、日本語の式文に導入された「とこしえ」

「常し」(形容詞) → 「常しえ」=永くかわらないこと、いつまでも続くこと (『広辞苑』)

過ぎ去らずずっと続くというイメージ →聖書・典礼式文では「世々に」の理解も必要

5. まとめ

永遠であることと全能であることは一体。全能永遠の神が、御子キリストによって人類と永遠の契約を結び、人を永遠のいのちへと招き、あずからせようとしておられる。その神に信頼し、天上の教会とともに、世々限りない賛美に地上の神の民が参加する。